

エコアクション21 認証・登録の進め方（2009年版）

はじめに

貴社がエコアクション21の認証取得を決意した理由は何ですか？おそらく取引先からのグリーン調達の要求に対応することが目的ではないでしょうか。いかに早く認証を取得するかがポイントになることでしょう。まずはシンプルなシステム（仕組み）を作り、認証を取得し、その後で着実に継続的改善を図ることが重要です。

さて、認証取得を審査人の立場から考えることは無駄のない仕組みを作るうえでとても重要です。エコアクション21の審査人研修では、審査は落とすことが目的ではなく、実効を上げることが重視すると強調しています。審査人は受審企業を指導することも許されており、落とすことを前提としていません。したがって、貴社も完璧を求める必要はありません。まずはシステム（仕組み）を作って動かしてみること、そして、審査を受けることが重要です。そして指摘された点を是正すればよいのです。また、どんな会社にも、現状のやり方を変えらるとなると“抵抗勢力”（言うことを聞いてくれず反発する方）が出ると思いますが、そのような抵抗勢力も審査を受けるとなると、「自分のために不合格になってはまずい・・・」と協力的になるものです。あれこれと心配して悩むより50点でもよいから動いた方が勝ちです。この資料を入手した時点で既にライバルをリードしているのですから、心配せずにまずはスタートしましょう。

このことはゴルフに例えるとわかりやすいと思います。完璧を期して練習場に通り詰めるより、まずはコースに出た方が上達は早いですよね。コースに出れば、何が不足して何を改善する必要があるのかが理解できるからです。貴社も早くデビュー（審査を受けること）してください。

以下は弊社がお薦めする認証取得までの効率的な進め方です。

ガイドラインの入手

まず、環境省が策定した「エコアクション21ガイドライン 2009年版」（以下、「ガイドライン」と言います）を入手しましょう。環境省のウェブサイトから入手することが可能です。

<http://www.env.go.jp/policy/j-hiroba/04-5.html>

ガイドラインを良く読んで要求事項（認証を取得するために必要なこと）を正しく理解することが成功への近道です。

また、認証審査登録制度を統括する財団法人 地球環境戦略研究機関 持続性センター（エコアクション21中央事務局）（以下「IGES」と言います）のホームページを閲覧し、審査登録制度の概要も把握しておいてください。

<http://www.ea21.jp/>

体制の整備【P29】（【 】内はガイドライン該当ページを示します）

環境経営システムは、経営者のための経営のツールです。経営システムとは、カルロス・ゴーン氏が日産自動車を再建したように、トップが明確な目標を定め、その目標達成のために役割責任を明確にしてPDCA（計画・実行・チェック・アクション）で全員が取り組むものです。社長や工場長など経営トップのリーダーシップなくして経営システムは機能しません。可能な限り社長がトップの役割を担いましょう。

次に社長（代表者）は、環境経営システムを構築・運用する責任を担う「環境管理責任者」を指名してください。環境管理責任者は、環境経営システムを統括するのですから、全部門に対して指導力を有する立場の方が望ましいです。代表者が自ら当たることも可能です。

また、必要に応じて、各部門の代表者から構成する推進チームとその事務局を置くことも有効です。事務局は環境管理責任者を補佐して機動的に動ける方が適任です。パソコンなどの取扱いが得意な方がお薦めです。

すべてを自社のみで推進するのか、またはコンサルタントの支援を受けるのかも検討しましょう。一通りの構築は弊社の資料でも十分ですが、より効果を上げたい、より早く認証取得したいと思うなら、良いコンサルタントは最短距離でのシステム構築・認証取得を容易にします。ただし、コンサルタントによっては、過剰なシステムを作ってしまう場合もあります。特にISO14001の経験を持つコンサルタントの中にはISO14001と同レベルで指導するコンサルタントもあり、これではエコアクション2.1の認証取得を選択した意味がありません。コンサルタントの選定にはエコアクション2.1に対する知識・経験を含め十分な検討が必要です。

スケジュールの作成

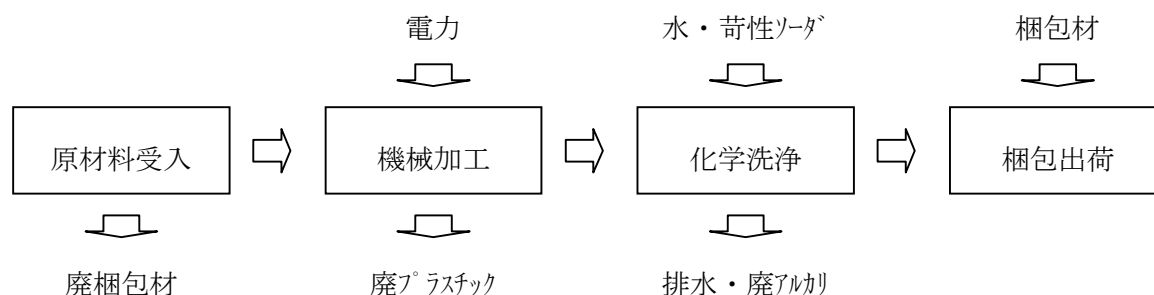
認証取得までの計画を立てましょう。いつまでに誰が何をするのかを明確にしてください。以降の項目のステップで計画を立てることをお薦めします。

環境への負荷の自己チェック【P22-23, P42-46, P51-59(チェックリスト)】

具体的な構築の第一歩は、皆様の事業活動と環境との関わりを調べることです。

まず皆様の事業活動の流れをフロー図にすることをお薦めします。川上から川下までの工程ごとに、どんなものが使用（インプット）され、どんなものが排出（アウトプット）されているかを調べて、お仕事のプロセスを整理してください。

【プロセスの例】



プロセスが明確になったら、「環境への負荷の自己チェック」をしましょう。前述のウェブサイトから【別表1 環境への負荷の自己チェックシート】をダウンロードします。エクセルのシートにより、ガイドラインに従い入力してください。なお、ガイドラインには、「可能な場合には2～3年のデータを整理し・・・」とありますが、当年度と、データがあれば前年分くらいは調査しておきましょう。

エコアクション21の中で最大の難関と思われると思いますが、高い精度は必要ありません。貴社の事業活動と環境の関係を把握することが目的ですので、詳細にとらわれずマクロ的に全体のバランスを把握してください。以下にガイドラインを補足する注意点を記します。

1. 事業の規模

主要製品生産高、売上高、従業員数、床面積を入力します。このデータは後に環境活動レポートにも利用されます。主要製品生産高は難しい場合もあると思いますが、今後、生産と環境負荷の推移を確認するために必要となります。あまり厳密に考えず、代表的なものを入力しておきましょう。

3. 取りまとめ①

二酸化炭素量排出量を電力及び燃料使用量を入力して自動算出します。また、廃棄物を焼却している場合は、その量も入力します。

3. 取りまとめ②

廃棄物等総排出量及び廃棄物最終処分量を調査しますが、特に一般廃棄物は詳細に分類されています。トン単位で記入しますので、高い精度は必要ありません。特に前年については詳細なデータを持ち合わせない場合も多いとは思いますが、分かる範囲で記入してください。

3. 取りまとめ③

総排水量及び水使用量を調査します。排水量が不明な場合は上水量から類推してください。水使用量ですが、水道料金の請求書や水道メーターから求めることができるでしょう。地下水の自家揚水の場合で量が把握できない場合がありますが、その場合は概算で問題ありません。

3. 取りまとめ④

化学物質使用量を調査します。対象は、原則としてPRTR制度対象物質です。使用量は、年間購入量から期末の保管量を差し引いた量が使用量となりますが、把握が難しい場合は購入量でも問題ありません。

3. 取りまとめ⑤

エネルギー使用量を電力と化石燃料等について調査します。電力会社や燃料販売会社の請求書等から調査し、エクセルのセルに入力すれば後は自動計算します。

3. 取りまとめ⑥

原材料、部品、梱包材料等の物質使用量を調査します。単位はトンで入力しますが、不明なものも多いことでしょう。主要なものは比重等から類推することも必要です。この場合、後々の推移が重要ですので算出の根拠は記録しておきましょう。高い精度が要求されるものではありませんので、神経質にならず、割り切って算出してください。

3. 取りまとめ⑦

サイト内で循環的利用を行っている物質等を調査します。対象は水及び資源です。資源の種類は、金属（鉄、アルミ、銅、鉛等）、プラスチック（種類毎）、ゴム、ガラス、木材、紙（用紙含む）、農産物、等です。

3. 取りまとめ⑧

総製品生産量又は総商品販売量のいずれかを可能であればトンで入力してください。

2. 環境への負荷の状況（取りまとめ表）

以上の取りまとめ結果を取りまとめ表に転記します。

続く…